

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 8 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470206115		
法人名	株式会社ヤシロ		
事業所名	グループホーム ふじの里		
所在地	広島市佐伯区藤の木2-27-5 082-927-3052 (電話)		
自己評価作成日	令和3年7月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470206115-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年8月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

近年のIT化により、情報共有できるタブレットをユニット（1階、2階）ごとに活用し、報告、連絡、相談などの業務が円滑に行えるようになり、職員間の情報共有、利用者の把握がよりリアルタイムにわかるようになった。それによって、利用者個人に合わせたサービスの提供、ケアが迅速にできるようになった。また、職員には単に利用者のお世話をするというだけでなく、その人の歩んできた人生、背景を考えながら介護に取り組んでいく。また、職員には、常に『考える』ことを優先し、何を、どのようにすれば、利用者がその人らしい生活が送れるのか、またより良いサービスを提供するには、どうすればいいかを考える力を身に付けるように行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍による自粛はあるが、最近の事業所における特徴的な取り組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化が見られる。即ち事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが、現在はコロナ禍による面会制限下で家族の要望に基づき県外家族とのテレビ電話、事業所での窓越し面会等を少人数ながら実現している。第二に「就業環境の整備」「職員を育てる取り組み」「個別の記録と実践への反映」に深化が見られる。即ち事業所は3年前から各階に情報共有ツールとしてタブレットを導入し、記録の合理化・効率化に繋ぐべく、職員IDによる検索や音声入力等も活用してITでの見える化に努めている。併せて介護業務が主の看護職員3名の配置もあり、利用者の健康管理・看取り等についてタブレットも介した医療・介護の連携・協働に努めている。

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝の朝礼で施設の理念を読みあげて職員間で確認を行っている。	事業所開設時に策定した理念を実践上の立ち返るべき原点として位置付け、朝礼での唱和・掲示にて意識付けを図っている。又、理念の達成度を具体的に検証すべく、介護職員としての適性を評価する新評価シートを策定しており、年1回の個人面談で気付きを促す予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事等に参加していたが、現在コロナ禍で参加できていない。また行事も開催されていないのが実情である。	現在はコロナ禍により外出は自粛中だが、本来は日頃から近隣への散歩・買い物や町内会に加入し、夏祭り・防災訓練・敬老会等の地域行事や近隣の公民館の催し物にも参加している。又、近隣の小学校からの社会見学を受け入れる等、相互交流・世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方とは、運営推進会議を通じて交流を図っているが、コロナ禍のためほとんど活かされていない。民生委員や女性会の方には、常に協力してもらい、徘徊などで不明な方の対応に協力を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年から運営推進会議の回数が減り、意見交換ができていない。	会議は定期的に行われているが、コロナ禍のため昨年9月・11月に利用者2名と地域包括支援センター職員又は民生委員或いは地域女性会の参加を得た外は、職員のみで開催となっている。会議では地域参加者から徘徊情報等の提供があり、地域情報の共有に繋がっている。	現在運営推進会議の開催は困難であるが、事業所運営において家族と共有すべき最重要課題は利用者のコロナ禍での安心安全な生活状況であると事業所は考えている。今は写真等による主要行事での生活像に留まっているが、より頻回な近況報告による安心感の提供に期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市の介護保険課と連絡を取りながら協力関係を築いている。また定期的なメール配信には、即、対応し早めに返信できるようにしている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し情報共有を図っている。市町担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の集団指導等の研修会へのオンライン参加を通して協力関係の構築を図っている。又、毎年区世界アルツハイマーデー記念講演会にも協力している。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に対して必要がある利用者は家族への承諾をもらって対応しているが、現利用者には該当される方はいない。玄関の施錠は、施設前が車が往来する道路のため、実施している。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。身体拘束防止委員会にて定期的な検証を行っている。夜間センサーマットを設置し拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。玄関は団地内の中心道路に面しており施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束防止委員会を三か月に一度開催し、学ぶ機会を設けている。また、職員間同志で虐待の可能性がある案件については、その場で注意をし防止できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設利用者の中で二名が活用している。全職員が、制度について理解しているかは不明だが概略だけは把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の前に、重要事項の説明を行い、その時に不安なことがあれば尋ねるようにしている。また、その後不安なことがあれば電話等で相談は受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議などで外部の意見を聞いているが、現在は少ない。またご家族からの要望があれば、すぐに対応できるように職員に反映している。ただ運営に関することに関しては、ご家族からの要望はほとんどないのが実情である。	家族とは電話連絡・介護計画更新時等で意見・要望を把握し、タブレットや連絡ノートで情報共有をしている。現在はコロナ禍で面会自粛だが、家族と連絡をとり迅速な対応に努めている。ただ状況を考慮し県外家族とのテレビ電話や事業所での窓越し面会を実現した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	適宜ミーティングや申し送りなどで意見交換を図っている。また、その都度、意見や提案があれば聞けるように心がけている。案件によっては、代表者、管理者とともに協議をし解決できるように話し合いの場を設けている。	日勤職員で随時小会議を行い、タブレットの申し送り事項・ヒヤリハット項目に入力し情報共有をしている。又半期毎の個別面談等を通し管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。今後は定期面談に新評価シートを導入予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働き方が多様化しているため、勤務の状況、スキルなどを考え昇給、賞与などに反映している。また、パート職員から正社員への登用も希望の職員がいれば、条件に見合えば実践している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修などあれば積極的に参加している、ここ最近はオンライン研修が中心になっている。また、無資格の職員にも研修の必要性を理解してもらい促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホームネットワークなどを通じて交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の前にどのように生活したいか、趣味は何か、などをヒアリングし快適に暮らせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族が困っていることなどあれば、電話を中心に問い合わせを行っている、またテレビ電話などを活用し、離れている家族にも関係を保っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご家族の思いや要望、できる限り聞き出し、寄り添えるように支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者ができることを見極めて職員と一緒に調理や掃除など手伝っていただいている。またその人らしい生活ができるように、家庭的な雰囲気を出しながら暮らしていけるように努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>現在、コロナ禍のため面会が難しいため、本人様の希望があれば電話で話をいただいている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍のため、外出、面会が難しいため出来ていない。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にし、以前は家族の要望で他県の温泉旅行を楽しんだ事もあったが、現在はコロナ禍による面会制限中であり、県外家族とのテレビ電話、事業所での窓越し面会、手紙のやり取り等、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人で過ごす方もいるが、本人のペースを優先している、また、孤立という考えはなく、本人の考えを尊重し、一人で過ごす時間も有効に使ってもらい、様子をみながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約の終了は、退去又は死亡の時の多いので、相談、支援にはかかわっていない。ただし、ご家族や他施設より相談などがあれば、可能な限り支援している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族から情報提供してもらい本人様にも希望や興味のあることを聞き、今までのような生活が送れるように配慮している。例えば利用者が好きな食べ物を提供したり、一緒に作ったりして、喜びを感じ取ってもらっている。	利用者の習慣や好み等の基本情報を基に、その後はその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、誕生日にばら寿司を提供したり、利用者の得意な家事で洗濯物畳みを手伝ってもらったり、寝たきりの利用者に好きなカーブのラジオ中継を聞いてもらう等、思いの共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の前に、ご家族より聞き、できる限り本人の希望通りの暮らしを目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	多種多様な利用者が入居しているため、その人らしい暮らしを見つけ出しながら、情報を収集し、その人の有する力を引き出せるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様、ご家族の希望、要望を聞き、希望に沿えるようにプランを作成し、ミーティングを実施している。また、利用者の状態が変化すれば、カンファレンスを行い、見直しを実施している。</p>	<p>介護計画原案を適宜担当者会議で検討し、電話連絡等で家族の同意を得て本案としている。計画作成担当者が半年を基本にモニタリング・計画を見直している。元魚屋さんに味付けを、元お好み焼き屋さんに生地返し方を教わる等、その方の強みを活かした立案に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日記録に残し、職員間での情報、状態を報告している、また情報を共有するためタブレット端末を使用しながら日々の変化に即対応できるように活かしている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の方も日々変化しており、体調の変化や身体劣化など、その時に応じた支援を心がけている。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>自力で歩行可能な利用者や車いす自走できる方は、近くの公園などに出かけ、気分転換を図っている。コロナ禍で外出機会少なくなっている。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月2回の定期往診に来ていただき、利用者の状況、またご家族の要望を聞きながら、最適な医療を提供している。また、重症化した場合は、連携医療機関へ協力を得られるようになっている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力医・協力歯科医から月2回の往診もある。専門医の受診は家族の協力も得ながら行われている。介護業務を主とする看護職員の配置もあり、利用者の健康管理について連携・協働している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員との情報共有は、タブレットを使用し、処置、気づき、今後の方針などを介護職員と連携し支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療連携を各往診の診療所と綿密に協議しているため、すぐに入院の手続きも可能、また退院するまでの情報を定期的に送信してもらい、医療機関との関係を保っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居前に、重度化したときの施設の対応を説明させていただき、了承は得るようにしている。また、実際に重度化した場合、医師、ご家族、施設側で協議していけるようにしている。</p>	<p>要望があれば看取りを行なう方針である。契約時に「重度化した場合の指針」「看取りに関する指針」で説明・理解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、指針に基づき適切な支援を行う方針である。職員の経験値もあり、年に数件の看取りがある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変、事故等は、事前に担当医と協議しており、職員もタブレットで共通認識している。訓練は先生より直接指導を受けた職員に限られる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練により、毎回参加する職員を替え、全職員が把握できるようにしている。地域との協力は、避難場所になっていることなど運営推進会議で報告している。</p>	<p>消防署の立ち会いの下、年2回の避難訓練を夜間を想定し利用者も参加して実施している。ハザードマップでは非該当地域だが、運営推進会議で事業所を一時避難施設として利用可能な旨を発信し、災害に備え非常電源や備蓄を整備している。地域の防災訓練にも利用者と毎年参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	各利用者によって対応を考え、第一に人格を尊重するように声かけをしている。また、これまでの生き方や考えなども考慮しケアしている。プライバシーの確保は、必ず居室に入る場合には、勝手に入らず声掛け、ノックを必ず行い了承を得てから入室をするようにしている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者の呼称や居室の入室も利用者の納得を得られる対応に努めている。又、玄関の面会票についても一覧表ではなく、個別様式にして記載の都度、事務所で管理する等、個人情報にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何がしたいか、何がやりたいかを日々探りながらケアに臨んでいる、欲しいものがあれば、できる限り要望に応え、その先にある情景を想像してもらうようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者本位が最優先で、職員側のエゴにならないようしている、そのためには、利用者の状況を常に把握し、その日の様子を判断して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な散髪や自分好みの服に着替えてもらい、その日の気分が向上するような支援をしている。できない利用者は、職員で準備し支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	炒めたり焼いたり難しいが、盛り付けなどは、職員と一緒に準備している。また、後片付け、食器洗いなども手伝ってもらっている。また、誕生日会などは、できる限り利用者とともに会話をしながら作っている。	食事は外部業者から届いた調理済みの食材に職員の作るご飯と汁物を添え提供している。誕生日に好みの寿司等を提供したり野菜嫌いに配慮したり、法人農園で芋掘りを楽しむこともある。利用者は後片付け等、役割に応じた手伝いをし、又利用者に応じた個別テーブルを導入することもある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>各利用者の食事量が違うため、各職員で情報を共有している。また、糖尿病、腎臓に疾病がある利用者には、食事制限あるため、提供する食事には最新の注意を払っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの実施、定期的な歯科訪問などにより、指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄管理表にて、時間帯を考えながら誘導している。一部介助が必要な利用者などもできるだけ自力で排泄ができるように声かけをしている。寝たきりの利用者は、排泄のリズムをつかみ、定期的な交換を実施している。</p>	<p>排泄管理表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから紙パンツへの移行例やトイレに跳ね上げ式の前方手すりの設置等、状態像に合わせた自立支援を行っている。夜間排泄時の転倒防止の為、センサーマットを設置している時もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分量など中心に考え、利用者の排便パターンを把握し、コントロールしている。病的な状態でない限り、薬の服用は避けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者本人の気持ちを尊重したり、体調を考えながら実践している。また、入浴の楽しみ方も伝えながら実施している。近場の温泉などに行く機会が減ったため、時期を考えながら再度、入湯も検討したいと考えている。</p>	<p>週2～3回の入浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮しシャワー浴や足浴で対応することもある。以前は近隣の温泉施設を利用することもあったが、今は歌詞カードを持ち込み、職員と美声を響かせている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>各利用者の生活リズムを優先し、そのペースに合わせている。自分で判断できない場合は、職員側で様子を見ながら対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>利用者が服用している薬は、ファイルにし全職員が共有できるようにしている。また、副作用に関しては、理解できているのは半々程度。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>各利用者の趣味、趣向を把握し、本人が楽しめる支援を心がけている。自分自身の洗濯物などは、できる限り自分で畳んでもらったり、自分の居室まで納めることまでの行為を実践している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍のため、外出はできず、車で花見に行った程度。</p>	<p>以前は夏祭り等の地域行事や近隣の公民館の催し物にも参加したり、家族との旅行支援等もあったが、現在コロナ禍で外出は自粛しており、時に花見ドライブで普段は行けないような場所での「非日常」を楽しんでいる。又、屋上での外気浴や近くの法人農園での芋掘りも行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在、利用者には現金は預けていない。何か必要なものがあれば、施設で立替、購入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者本人の要望があれば、電話を掛けたり、手紙を書いたりしている。また、ご家族から電話連絡があれば、希望があれば本人に替わっている。</p>	/	
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビング、廊下などに季節に応じた塗り絵やちぎり絵などは張り、季節感を出しながら楽しんでもらっている。また、各月の行事があれば、それに応じた空間を作れるよう工夫している。</p>	<p>季節の花や正月・七夕等、行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品で季節の移ろいを感じられ、又、朝餉・夕餉の匂い等で居心地の良い生活空間となっている。感染症対策で消毒の徹底や換気等にも万全を期している。自立支援に繋ぐべくトイレに跳ね上げ式の前方手すり等の設置もある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人になれる場所もあり、その人のペースに任せていき、安心できる場所を提供している、またリビングでは自由に過ごしてもらい、話し合いができる場も確保できている。</p>	/	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、思い出の写真やご家族の写真などを貼り、心地いい暮らしができるように配慮している。またご家族から提供されたものは、居室に配置したりして工夫している。</p>	<p>居室にはベッド・クローゼット等が備え付けられ、仏壇・箆笥・夫のベッド等、使い慣れた物や家族写真・孫からの手紙等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレの場所など、大きく紙に書いて貼ったりし、迷いを防いだり、手すりなどを活用し、自力で歩行ができるように配慮している。</p>	/	

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	週に一度、朝礼時に理念の唱和を行い共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為中止、以前は地域の行事などに参加し交流を図っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議時に、地域の方への呼びかけをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、ほとんど開催できていない。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	グループホームネットワークなどで職員の方と関りを持ち相談しやすい関係を作っている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束しないケアに取り組んでいるが玄関の施錠は難しい状況にある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の参加、資料の配布に努め学ぶ機会を持ってもらうようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、後見人制度においては2名利用されており活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居する前に重要事項の説明をし不安、不明なことは尋ねるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在、運営推進会議で意見を求めているが、コロナ禍のため機会は少なくなっている		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的なミーティング、朝の申し送り等で意見を出してもらっている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>一般職員ではわからない。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>シフトを調整しながら外部の研修等に参加(オンライン研修)。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループホームネットワーク、勉強会への参加に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接を行いできるだけ情報収集に努め、関係を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>面会、契約時に要望等を聞くようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居の前に、以前の暮らし、趣味、趣向などの聞き取りをし、施設で穏やかに過ごせるよう支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人様の意思を尊重し、自らの行動、考えを優先し関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の要望などを聞き取り、できる限り可能な支援をしていき、本人のやりたいことを築いていく。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの人が訪ねて来たりされた場合は、居室にて面会対応している。また思い入れのある場所においては、現在は控えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関りは、常にその日の状況を把握しながら対応している。一人で孤立している場合は、常に声掛けし、孤独感を感じないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した段階で、ご家族、利用者とも連絡を取ることはないので、仮に連絡があれば対応するように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	話をじっくり傾聴し何事も受け入れ、その利用者に寄り添うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活スタイルや生活習慣、生活歴、性格等、情報収集して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方は、それぞれ異なっているので、穏やかに過ごしてもらうよう言葉かけ、笑顔で接するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	コロナ禍でミーティングは減少しましたが、職員同士で報・連・相しながら日々のケアに努めている。介護計画にもつながっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきなど、タブレットに打ち込み、職員全員が情報を共有している。見直しにも活かしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	多職種の方と連携して、その人に合ったニーズに対応しサービス等に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	公民館、町内会行事に支援しているが、現在、コロナ禍で支援出来ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけの医療は随時、受けられるように常に支援はしている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>早期発見することが重要で看護職員と連携し助言や指導等受けている。受診が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院との連携を図り、病院との関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>本人、家族の希望を重視し、また医師と相談しながら施設でできる事に取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>全ての職員が備え等の訓練は実施していないが、多職種のアドバイスを聞いて身に付けるよう心がけている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時の講習は受講しているが、全職員が身につけて、利用者全員を安全に避難出来るのは不安であるが、避難訓練で築けるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目線を合わせ、不愉快な思いをさせないように言葉かけには日々気をつけている。耳が遠い方には、非言語的コミュニケーションにて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者によく傾聴し、その人の良い面を知ることによって色々引き出し、希望ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のそれぞれの生活のパターンがあるので、できるだけペースを崩さないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	耳掃除、手足の爪切り、髪をとく、季節に応じた衣類等支援している。自立の方は、洗面所にて洗顔、歯磨き、髪をといてもらうよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けやお盆拭き等して頂く。誕生日会は利用者の好みの料理をできる範囲のことを一緒にするなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>清潔で楽しく明るい雰囲気です美味しくできるだけ自力で食事ができるように気配りしている。嚥下障害のある方は嚥下がスムーズであることを確認しながら体位保持に気を配り食事の形態を変えたり支援している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>一人ひとりその人に応じたケア用具を使用して丁寧に汚れを落とす、義歯は夜間ケースに入れ除菌をし口腔内細菌が原因にならないように感染防止に気を付けたケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>気兼ねや恥ずかしい気持ちを少なく出来るよう一人ひとりのサインを見逃さず、失敗しなかった喜びを感じられる支援、言葉かけに特に注意している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>清潔、換気、環境のよいトイレ内でリラックスに排泄できるように心がけ飲食物の工夫、運動、排便後ウォシュレット使用し清潔にして予防に努める。便秘時は腹部、臀部のマッサージを行い医師の指示に従う。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>気持ちよくリラックス出来るように浴室内の環境整備に努め安全、安心を心がけて楽しく入浴できるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>環境を整え清潔な寝具類、衣類を用意し、安心して気持ちよく休んでいただけるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>安全は与薬を行うため、必ず3回薬包装紙を確認する、服薬の効能を参照し病状の経過観察に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの能力に合わせた役割をして頂き生きる喜びを感じとっていただき自信を持って明るく過ごして頂けるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コミュニケーションの場面作りを大切にして、おしゃれをして気分転嫁ができる支援している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>申し出者の気持ちに寄り添い、管理者に申し出て対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>コロナ禍のため、テレビ電話を活用しご家族様と楽しくコミュニケーションをとって頂けるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>整理、整頓、換気が出来た気持ちのよい季節感あふれる場所であるように気を配っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>参加できるレクレーションに参加していただき無理のないようにする、気の合った利用者様とお話しが出来るように気を配る。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>整理、整頓、換気に気を配り安心、安全に思い出の品などを置いてほっとした時間を過ごせるように支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立した生活が長く続くようにストレスのない明るく笑い声があるコミュニケーション作りで楽しく安全に過ごせるように支援している。</p>		

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふじの里

作成日 令和3年9月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の中での地域の方、又はご家族との交流が閉ざされていること、面会ができない状況。	この状況下の中でも、ご家族や地域の方に少しでも安心できる環境作り。	非接触での面会やITを使用し顔の表情や会話などが要望に応じた対応ができるようにする。	半年～1年
2	33	重度化した場合、又は看取りの時期に入った利用者に対してのご家族のフォロー。	ご家族の不安、心配なことを少しでも軽減すること、感染対策を徹底しながらできる限りの面会が可能な状態にする。	ご家族がPCR陰性、もしくはワクチン接種済みであれば、フェイスマスク、アクリル版等で面会可能な状態にしていきたい。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。